

# 2023年度「就職先企業等に対する目白大学短期大学部卒業生の学習成果調査」 結果報告

目白大学短期大学部

## 【1】調査の概要

### 1. 目的

本学卒業生の学生時代の学習効果が、就職先等で生かされているかを検証し、在学生への教育活動・就職支援に反映させる。

### 2. 調査対象

目白大学短期大学部 2023年3月卒業生(ビジネス社会学科、製菓学科、歯科衛生学科)の就職先企業および団体 119件

### 3. 実施時期

調査期間： 2023年10月4日(木) 発送～2023年10月20日(金)

集計期間： 2023年10月26日(木)～2023年11月29日(水)

### 4. 調査方法

調査用紙を企業・団体に郵送し、Google フォームでのアンケート回答にて回収

### 5. 回答状況について

【回答数】 39件

【回答率】 32.8%

### 6. 調査項目

問1. 本学の卒業生は職場の環境に調和していますか。

問2. 本学の卒業生は積極的に仕事に取り組んでいますか。

問3. 採用いただいた卒業生は、本学で学んだ以下の点を業務上活かしていますか。

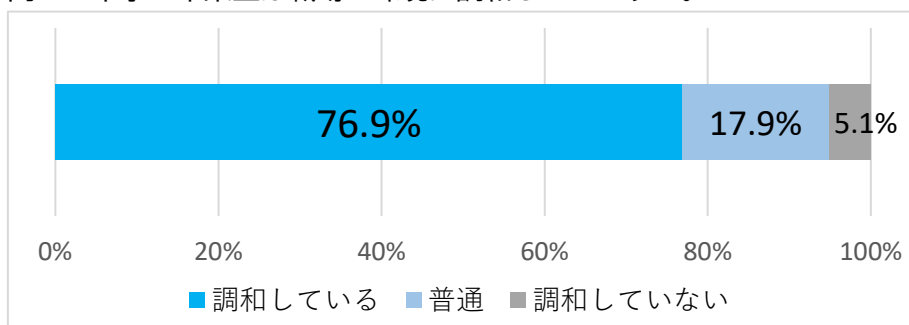
- ① 社会人としての基礎的な知識・教養
- ② 粘り強く、挑戦する力
- ③ 地域や社会に貢献する意識
- ④ 課題解決に向けて学び続ける力
- ⑤ 情報リテラシーを活用する力
- ⑥ 計画性・スケジュール管理能力
- ⑦ 得た知識・スキルを応用する力
- ⑧ 他者と協力する力
- ⑨ 自己を表現する力
- ⑩ コミュニケーション能力

問4. 今後本学の教育についてさらに充実が必要と思われることを、ご入力ください

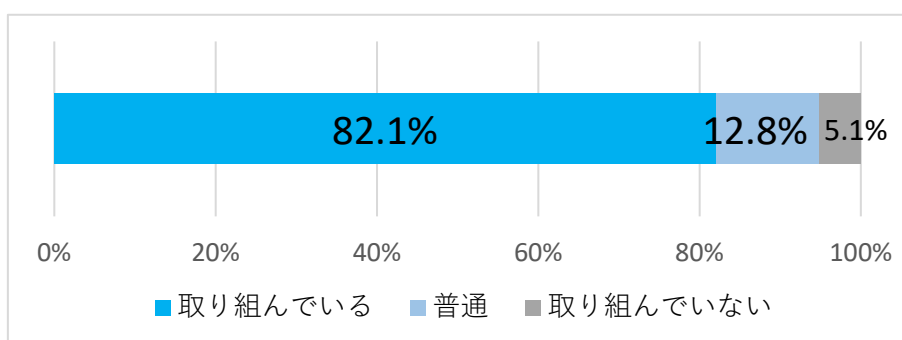
問5. 採用選考時に、成績証明書・健康診断書・卒業見込証明書以外で大学が提供すれば、採用判断に有用となり得る情報や証明書があれば、ご入力ください。

## 【2】調査結果

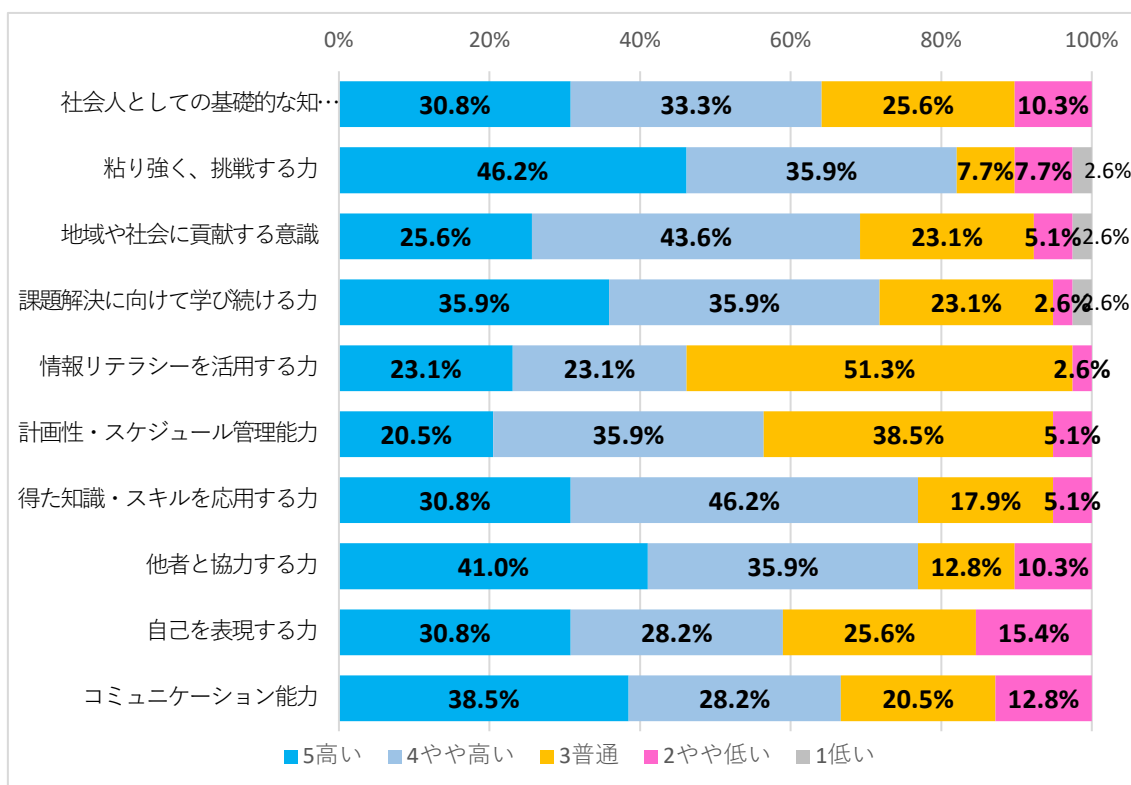
問1. 本学の卒業生は職場の環境に調和していますか。



問2. 本学の卒業生は積極的に仕事に取り組んでいますか。



問3. 採用いただいた卒業生は、本学で学んだ以下の点を業務上活かしていますか。



※問4, 5は自由記述のため省略

### 【3】調査結果の分析と改善点

#### (1) 本学卒業生の職場の環境への調和と取り組み姿勢について

「本学卒業生は職場の環境に調和している」との回答が約8割であったが、「職場の環境に調和していない」との回答が2件みられた。また、「本学の卒業生は積極的に仕事に取り組んでいる」との回答も約8割であったが、「積極的に仕事に取り組んでいない」との回答が2件みられた。「職場の環境に調和していない」との否定的な回答2件は、「取り組んでいない」の回答2件と一致していた。うち1件からは、本学の教育についてさらに充実が必要なこととして、「失敗を恐れずに挑戦する気持ちを育てること」であるとしてご指摘いただいた。消極的な取り組み姿勢では、あらゆる場面で成長の機会を逃してしまう。卒業後の取り組み姿勢につながるよう、在学中の授業への取り組み姿勢の向上のための指導及び支援が必要である。

#### (2) 評価の高い力・能力

本調査結果から読み取れる評価の高い力・能力としては、「粘り強く、挑戦する力」「得た知識・スキルを応用する力」「他者と協力する力」が挙げられる。しかし、それらの全般的に高評価の項目についても低評価の卒業生がいた。

これらの力を持つものが、力を強みとしてさらに向上させるとともに、これらの力を全ての学生が身につけられるよう、初年次から「ベーシックセミナー」「キャリアデザイン」等の基礎教育科目の内容の充実を図るとともに、専門教育科目においてもさらに能力を高める機会を設ける必要がある。

#### (3) 改善が求められる力・能力

本調査結果において、「高い(5と4の合計)」の割合が最も低かったのは、「情報リテラシーを活用する力」であった。次いで「計画性・スケジュール管理能力」「自己を表現する力」が低かった。また、「低い(2と1の合計)」の回答が最も多かったのは、「自己を表現する力」であった。

2023年3月卒業生は、ビジネス社会学科及び製菓学科は2021年度入学生、歯科衛生学科は2020年度入学生が主体である。2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により遠隔授業が中心となり、学生生活の前半は様々な制約の中で学び、卒業を迎えた学生であった。遠隔授業により、Webの活用は十分に経験したと思われるが、多くの情報の中から必要なものを選択し、活用する力は不十分であったと思われる。また、対面授業で人との関わりの中で自己を表現する機会や、日常の関わりの中で教員が気づき、指導できることが十分に享受できなかった可能性がある。

「今後本学の教育についてさらに充実が必要と思われること」においても、対話力の向上や、人との関わりやコミュニケーション、協調性などを大学教育で学んで欲しいとの指摘があった。今後は対面授業の中でコミュニケーション能力と自己表現力を高められるよう、他者と関わる機会を増やすとともに、その質を充実させる工夫が必要である。

「情報リテラシーを活用する力」に関しては、基礎教育科目の教育内容を再検討するとともに、「計画性・スケジュール管理能力」「自己を表現する力」を学生が自ら身につけられるよう、アクティブラーニングをより積極的に活用することが望まれる。

また、「今後本学の教育についてさらに充実が必要と思われること」で提言があった具体的な実習内容、出会う物事などに対して興味をもち、積極的にかかわろうとする姿勢等は、基礎教育科目及び専門教育科目において、現場で求められるスキルを考慮した実習内容や教育方法をさらに検討する必要がある。

以上